

3-d-1_学部別学術賞の受賞状況

N O	教員名	所属	身分	受賞年月日	国内・ 国外	授与機関等	受賞名	受賞・表彰概要	資料・URLなど	備考
1	佐野 文彦	法学部法律学科	准教授	2024年4月1日	国内	東京大学	(東京大学而立賞) 第五回而立賞	著書名「刑事責任能力の判断について——原理・基準・適用」 優れた学術成果の刊行として、2024年度東京大学学術成果刊行助成となり、その著作物を刊行した優秀な若手研究者として、第五回而立賞を授与された。	東京大学HP https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/research/systems-data/n03_kankojssei.html 著作 https://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641139695	・而立＝じりつ
2	山口 二郎	法学部政治学科	教授	(表彰式)2025年1月21日	国内	一般財団法人 櫻田會	政治研究櫻田會特別功労賞	受賞作「民主主義へのオデッセイ」 (岩波書店 2023年12月)	一般財団法人 櫻田會HP https://www.sskuradakai.jp/prize/latest_prize_winner/	
3	福田 円	法学部国際政治学科	教授	2024年11月29日	国内	中曽根平和研究所	第20回中曽根康弘賞(奨励賞)	中国・台湾の政治外交ならびに中台関係を専門とする研究者としてその学術研究を深めるとともに、世界的な研究の場において積極的な情報発信にも取り組み、内外に対して中台関係理解の基礎となる知見を活発に発信するなど、顕著な実績を挙げている。	中曽根平和研究所 https://npi.or.jp/award/winner_20.html	
4	伊藤 達也	文学部地理学科	教授	2024年6月1日	国内	水資源・環境学会	2024年度 水資源・環境学会 学会賞	著書名:伊藤達也(2023)『水資源問題の地理学』原書房 本書は、水資源問題のうち、主として過剰開発問題に焦点をあて、顕著な問題の発生している事例に取り組んだ研究の成果である。過剰開発問題が今後の水資源政策を依然として規定しているという状況を再確認させる点で本書の意義は大きく、今年度の学会賞授与を決定した。	水資源・環境学会HP(https://jswre.org/wp-content/uploads/2025/01/NL92.pdf)	
5	萬代 悠	経済学部経済学科	准教授	2024年12月9日	国内	公益財団法人サントリー文化財団	第46回 サントリー学芸賞	論文名『三井大坂面替店(みつのおおさかいうがえだん) —— 銀行業の先駆け、その技術と挑戦』(中央公論新社) 要旨(要旨):1691年(元禄4年)に三井高利が開設した三井大坂面替店に焦点を当てている。今に数える三井家正縁文書などを丹念に読み解き、江戸時代の銀行業の実態を解明している。本書は、江戸時代の金融システムにおける新事実を明らかにした点で、経済現象を分析した優れた書として評価されている。	https://www.suntory.co.jp/news/article/14700-1.html	
6	李 舜志	社会学部メディア社会学科	准教授	2024年12月6日	国外	Philosophy of Education Society of Australasia	2024Book Award	Philosophy of Education in Dialogue between East and West: Japanese Insights and Perspectives Chapter 4: Catastrophe and Educationを担当、戦争や被爆体験の継承について哲学的に分析した。	https://pesa.org.au/scholarships-grants/pesa-book-awards	上野正道(上智大学) 釜井麗子(岩手大学) ほか
7	中野 貴之	キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科	教授	2025年3月28日	国内	中央経済社	第5回『企業会計』カンファレンス優秀賞	報告名:中野貴之・金鐘勲・成岡浩一「四半期決算短信に対する任意レビュー実施企業の特性―「四半期開示の見直し」の事後検証」 「四半期開示の見直し」に伴う四半期報告書の廃止を受け、2024年3月期決算以降、公認会計士等による四半期レビューは任意となった。本報告は、同制度改定後初となる四半期決算短信のデータを用いて、同任意レビュー実施企業(非実施企業)の特性の解明を試みたものである。検証の結果、わが国の上場企業による当該意思決定には、監査法人の規模およびガバナンスの特性等が関連していることと整合する証拠を得た。	なし	専修大学商学部 ・金鐘勲 准教授 ・成岡浩一 教授
8	日高 宗一郎	情報科学部コンピュータ科学科	教授	2024年9月12日	国内	日本ソフトウェア科学会	第40回大会高橋奨励賞	論文名: Soichiro Hidaka, Hiroyuki Kato, Masato Takeichi: An Adaptation Framework for View-based Data Sharing in Bipartite Network of Bidirectional Transformations 表彰理由: 高橋奨励賞は大会において論文を投稿し講演を行った本会会員のうち、論文内容及び発表技術が優秀であった者に与えられる。(ただし、本賞を2回以上受賞したものは除くものとされている。)これらに該当する発表から選考委員会での選考を行い、役員会において受賞者を決定した。	学会誌記事 https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsst/41/3/41_3_62/_pdf/-char/ja	
9	佐藤 周平	情報科学部デジタルメディア学科	准教授	2024年9月12日	国内	Visual Computing 2024	VC Young Researcher Award	「佐藤周平氏は、これまでに SIGGRAPH/TOG 論文計3件を含む国際論文誌／国際会議の主著者として14件を発表し、さらに Visual Computing (BVC)コンジョウムを含む」において主著者として10件(うち受賞6件)、共著者として26件(うち受賞7件)を発表しています。氏の代表的な論文では、ユーザの与えたベクトル場に従って煙の流れをガイドする方法、および画像のスタイル転写を参考にしてある流れから別の流れに流体の詳細な乱流成分を転写する方法を提案し、国際的な評価を得ています。佐藤氏のこれまでの国際的な業績および Visual Computing における研究発表の功績は特筆すべきものであり、本賞の選考基準を十分に満たすものと判断し、ここに選定いたします。」	https://visualcomputing.jp/vc2024/award/	
10	高村 誠之	情報科学部デジタルメディア学科	教授	2024年6月1日	国内	電子情報通信学会 画像工学会	IE特別賞	論文名:深層学習を利用した多モーダルグラフ信号のグラフ学習を伴うノイズ除去 多モーダル信号に対し、グラフ学習を行いながらノイズ除去を行う手法を提案し、実際の気温データを用いた実験の結果、従来手法よりも小さい平均二乗誤差でノイズ除去が実現できることを確認した。	https://www.ieice.org/iss/is/jpn/	高波圭吾、小島竜(阪大/東京農工大)、原惇也、東広志(阪大)、坂東幸浩(NTT)、田中雄一(阪大)
11	高村 誠之	情報科学部デジタルメディア学科	教授	2024年6月6日	国内	電子情報通信学会	業績賞	表彰理由:「映像符号化技術の研究開発とそのMPEG国際標準化の推進」として、電子工学及び情報通信に関する新しい機器、又は方式の開発、改良、国際標準化でその効果が顕著であり、近年その業績が明確になったと認められた。	https://www.journal.ieice.org/bin/pdf/link.php?fname=k107_7_595&lang=j&year=2024	松尾翔平、坂東幸浩(NTT)
12	高村 誠之	情報科学部デジタルメディア学科	教授	2024年8月11日	国内	International Artificial Intelligence Industry Alliance (AIIA)	Fellow	経賞理由: AIIに関するoutstanding scientists from various fields and industriesの中から選ばれるFellowとして認められた。	https://www.aiaa-ai.org/nd.jsp?id=854	単独
13	高村 誠之	情報科学部デジタルメディア学科	教授	2024年11月23日	国内	IEEE Member and Geographic Activities Board (MGA)	Recognition(表彰)	表彰理由: "In recognition of valued contributions to IEEE as MGA Zone Representative Region 10"として、IEEEのアジア太平洋地区(Region 10)における北アジア代表 兼 IEEE本部理事としてのリーダーシップと貢献が認められた。	なし	単独
14	高村 誠之	情報科学部デジタルメディア学科	教授	2024年12月31日	国外	IEEE Region 10	Certificate of Appreciation (感謝状)	表彰理由: "In recognition of your dedicated services and commitment as the IEEE Region 10 Zone Representative (North Asia) for 2024"として、IEEEのアジア太平洋地区(Region 10)における北アジア代表としてのリーダーシップと貢献が認められた。	なし	単独
15	赤松 佳珠子	デザイン工学部建築学科	教授	2024年4月19日	国内	日本建築学会	作品選奨	土生公民館	https://www.aij.or.jp/2024/2024prize.html	
16	安藤 直見	デザイン工学部建築学科	教授	2024年6月8日	国内	日本図学会	優秀研究発表賞	黒門町の街並みと小さな広場	https://www.graphicscience.jp/award3/	
17	安藤 直見	デザイン工学部建築学科	教授	2024年6月14日	国外	International Conference on Engineering Graphics and Design	功労賞	ルーマニアで開催の会議への継続的な参加による工学および建築学におけるグラフィック分野への長年にわたる貢献		
18	小堀 哲夫	デザイン工学部建築学科	教授	2024年8月6日	国内	一般社団法人ニューオフィス推進協会	奨励賞	2024年度 第37回 日経ニューオフィス賞 中部ニューオフィス奨励賞「クスリのアオキ本社ビル」	https://www.nopa.or.jp/prize/contents/congratulation37.html	
19	小堀 哲夫	デザイン工学部建築学科	教授	2024年10月11日	国外	The Farmani Group	Honorable Mention	Architecture MasterPrize 2024, Firm of the Year, Honorable Mention in Architecture / Institutional Architecture	https://architectureprize.com/winners/winner.php?id=9161&mode=hm&compID=12812	
20	小堀 哲夫	デザイン工学部建築学科	教授	2024年7月17日	国外	Laka Foundation	Design Educates Awards Selected in Architectural Design	大和ハウスグループ みらい価値共創センター「コトクリエ」	https://gallery.designeducates.com/projects/2528	共同受賞者: 大和ハウス工業株式会社、株式会社フジタ
21	中野 淳太	デザイン工学部建築学科	教授	2025年3月13日	国内	空気調和・衛生工学会	第63回学会賞技術賞	大林組宿泊研修施設「Port Plus」の 環境・設備計画(計画検証)	https://www.shasej.org/award/award2025/houkou/2025gjutsu.pdf	
22	今井 龍一	デザイン工学部都市環境デザイン工学科	教授	2024年4月5日	国内	情報処理学会	業績賞	スポーツ情報処理のためのセンシングデバイス・システムの開発実践	https://www.ipsj.or.jp/award/gyoseki.html	共同受賞者: 田中成典(関西大/Intelligent Style)、森木英一(クロスセンシング(株)/アジア航測(株))、山田貴之(クロスセンシング(株)/元アジア航測(株))、松林豊(クロスセンシング(株)/アジア航測(株))
23	今井 龍一	デザイン工学部都市環境デザイン工学科	教授	2024年6月3日	国内	土木学会	デジタルツイン・DX論文賞	点群のプログラクモデルの構築に向けた道路地物の領域データの自動生成に関する研究	https://committees.jsce.or.jp/struct1002/node/47	共著者: 山本忍(本学博士2年(当時))、中村健二(大阪経済大学)、塚田義典(關澤大学)、麻生 紀子(ダイナミックマッププラットフォーム株式会社)

3-d-1_学部別学術賞の受賞状況

N O	教員名	所属	身分	受賞年月日	国内・ 国外	授与機関等	受賞名	受賞・表彰概要	資料・URLなど	備考
24	今井 龍一	デザイン工学部都市環境デザイン工学科	教授	2024年12月17日	国内	土木学会	AI・データサイエンス論文賞	車両の形状とナンバープレートの分類番号の認識結果を用いた車種判定手法に関する研究	https://committees.jsce.or.jp/struct1002/node/64	共著者:住吉諒, 山本雄平(関西大学), 中原匡哉(大阪電気通信大学), 神谷大介(琉球大学), 姜文淵(大阪産業大学)
25	内田 大介	デザイン工学部都市環境デザイン工学科	教授	2024年4月14日	国内	土木学会	優秀査読者表彰	構造工學論文集 Vol. 70A	https://www.jsce.or.jp/committee/struct/journal/award70.html#review	
26	福井 恒明	デザイン工学部都市環境デザイン工学科	教授	2024年5月13日	国内	土木学会	出版文化賞	【書籍名】『土木デザイン ヒト・まち・自然をつなぐ仕事』		
27	溝渕 利明	デザイン工学部都市環境デザイン工学科	教授	2024年10月11日	国外	ICE Journal	ICE Publishing Award Sir Benjamin Baker Medal	Fatigue durability of reinforced concrete bridge deck repair methods	https://www.emeraldgroupublishing.com/	共同受賞者:長谷俊彦(NEXCO中日本エンジニアリング), 萩原氏(NEXCO東日本)
28	溝渕 利明	デザイン工学部都市環境デザイン工学科	教授	2024年10月11日	国外	ICE(Institution of Civil Engineers);英国土木学会	ICE Publishing Awards 2024	Fatigue durability of reinforced concrete bridge deck repair method (鉄筋コンクリート床版の打換え補修工法の疲労耐久性)	https://www.icevirtuallibrary.com/page/awards	ICE Publishing Bridge Engineering 著者:長谷俊彦, 溝渕利明, 萩原裕樹
29	山本 佳士 野々部 宏司	デザイン工学部都市環境デザイン工学科 デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年12月17日	国内	土木学会	AI・データサイエンス奨励賞	量子アニーリングおよび一般化Benders分解法を用いたトポロジー最適化に関する基礎的研究	https://committees.jsce.or.jp/struct1002/node/64	共著者:芳賀賢(修士1年(当時)), 村松眞由(慶應義塾大学), 加藤準治(名古屋大学)
30	安積 伸	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年3月27日	国内	ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール	審査委員特別賞	【製品名】まいカップ【概要】プレス加工による金属製計量カップ。	https://www.city.tsubame.niigata.jp/section/jtide/index.html	共同制作者:武内紗永子(法政大学デザイン工学部システムデザイン学科ヒューマニティデザイン研究室修士課程修了生)
31	安積 伸	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年3月27日	国内	ジャパン・ツバメ・インダストリアルデザインコンクール	審査委員特別賞	【製品名】Lumi【概要】ステンレスワイヤー曲げ加工技術を活用したトリベント。	https://www.city.tsubame.niigata.jp/section/jtide/index.html	共同制作者:細井匠馬(法政大学デザイン工学部システムデザイン学科ヒューマニティデザイン研究室修士課程修了生)
32	安積 伸	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年10月16日	国内	公益財団法人日本デザイン振興会	グッドデザイン賞	設備用スピーカー「コンバクトスピーカー フシリーズ」	https://www.g-mark.org/gallery/winners/22134?years=2024&fclid=1wY2xjwGB6DJeHRuA2FibQlsMQABHY04sG2NC9LZXymNbdzMzMlIm1sjog.osQWrlKAILy-RWXNghvmrL_DVw_aem_pNhKvhlHM-m5dK51BjEZQ	事業主体名: TOA株式会社
33	安積 伸	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年11月	国内	角館町樺細工振興育成協会	第52回角館町樺細工伝統工芸展秋田魁新報社賞	樺ステッカー(伝統工芸・樺細工の樹皮端材を有効活用したステッカー)	https://tomioaka=shoten.com/blogs/news/the52ndexhibition_3 https://azumi-lab.sakura.ne.jp/Awards/img/kaba_sura.jpg	事業主体名: (有)富岡商店 共同制作者:本多彩葉(学部4年生(当時))
34	安積 伸	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2025年2月8日	国内	佐賀県 さがデザイン	SAGA DESIGN AWARD 大賞	地球の環境を守り持続可能な生活を生み出す器 うつら(精成舎)	https://saga-design-award.jp/award/374/	株式会社224(精成舎)、辻 諭
35	姜 理恵	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年7月7日	国外	2024 ICSB World Congress	Best Paper Awards	Effects of Leadership Program on Development of Generic Skills and Entrepreneurship – Role of Questioning and Reflection Focused Action Learning on Young Adults	https://icsbcongress.com	共同受賞者:清宮普美代(博士2年(当時))
36	姜 理恵	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2025年1月24日	国外	International Council for Small Business (ICSB)	10 most impactful papers of 2024	アカデミックアントレプレナーへの支援を、その起業動機別に論じた定量研究	https://www.linkedin.com/feed/update/urn:li:activity:7288276736562114560/	共著者:阿部俊光(博士2年)
37	田中 豊	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年11月22日	国内	ICMT2024(第27回メカトロニクス技術に関する国際会議)	Best Paper Award	Additive Printing on Convex and Concave Surfaces with Slant Direct Drive Parallel Mechanism	https://w3a.kanazawa-it.ac.jp/ICMT2024/	蘇 健恒 (Jianheng Su) (デザイン工学研究科システムデザイン専攻) 田沼千秋(法政大学マイクロナノテクノロジー研究センター)
38	山田 泰之	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年6月22日	国内	一般社団法人 日本人間工学会	2024年度日本人間工学会 実践論文賞	走行時と乗り降りの子どもの安全性を考慮した子ども乗せ自転車の開発		共同研究者:小倉健太郎
39	山田 泰之	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年10月16日	国内	公益財団法人日本デザイン振興会	2024年度グッドデザイン賞	部門:生活家具 対称:KUROSHIRO(家具ブランドについて)	https://www.g-mark.org/gallery/winners/21615?text=%E3%82%A2%E3%83%99%E3%82%AD%E3%83%B3	共同研究者:株式会社アベキン 設計部 上村安範、土田勝己、斉藤辰男、遠藤大英、+ 山田泰之 デザイナのみ記載。
40	山田 泰之	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2024年12月22日	国内	コクヨ株式会社	コクヨデザインアワード2025 ファイナリスト	Universal sticker	https://www.kokuyo.co.jp/award/archive/prizepast/2025.html	
41	山田 泰之	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2025年2月7日	国内	株式会社ミラタップ	ミラタップデザインアワード2024入賞	Stealth Ventilator	https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000155.000016209.html	
42	山田 泰之	デザイン工学部システムデザイン学科	教授	2025年2月24日	国内	公益財団法人フジシール財団	第4回フジシール財団賞	「開封体験を演出する色とテクスチャが変化する AIJSAIシートの研究開発」	https://www.fujiseal.or.jp/support/award.html?s=09	
43	新井 和吉	理工学部機械工学科	教授	2024年5月22日	国内	日本材料科学会	功績賞(中村賞)	この賞は日本材料科学会の発展に特に功績があったと認められた人に贈られるものです。		
44	新井 和吉	理工学部機械工学科	教授	2024年10月25日	国内	第61回 高圧ガス保安全国大会	高圧ガス保安協会 会長表彰(保安功績者)	経済産業省と特別民間法人 高圧ガス保安協会との共催の、第61回 高圧ガス保安全国大会において、令和6年度 高圧ガス保安協会 会長表彰(保安功績者)を受けました。 本表彰は、多年にわたり同協会の関係委員会等において、同協会の業務に多大の貢献をしたものに贈られるもので、約29年間にわたり高圧ガスの保安のために尽力した功績に基づき、感謝状が贈呈されました。		
45	川上 忠重	理工学部機械工学科	教授	2024年9月21日	国内	日本設計工学会、 2024年度春季大会研究発表講演会	優秀発表賞	論文名:2サイクル対向型ピストンエンジンの失火率および排気特性に関する一考察 次世代型の環境にやさしい内燃機関として、従来の4サイクル機関に比べて小型化、軽量化および高出力が実現可能な2サイクル対向型ピストンエンジンを新たに開発し、2サイクル特有の問題である「吹き抜け」による未燃成分の発生やサイクル中の失火率に関する検討を行い、今後の2サイクル対向型ピストンエンジンの開発に関する指針を明らかにした。		
46	小泉 隆行	理工学部機械工学科	准教授	2024年11月5日	国内	日本ばね学会	日本ばね学会2024年度論文賞	ばね用冷間圧延オーステナイト系ステンレス鋼板の永久強度評価		

3-d-1.学部別学術賞の受賞状況

N O	教員名	所属	身分	受賞年月日	国内・ 国外	授与機関等	受賞名	受賞・表彰概要	資料・URLなど	備考
47	小泉 隆行	理工学部機械工学科	准教授	2025年3月8日	国内	日本鉄鋼協会	澤村論文賞	論文名:Permanent Strength of Interstitial-free Steel Processed by Severe Plastic Deformation and Subsequent Annealing 材料の強度評価は、従来、引張試験によって行われてきました。しかし、一般的な引張試験では、ひずみ速度に依存した一時的な強度しか評価できず、長期間にわたる応力保持能力を正確に把握することは困難でした。本研究では、この課題に対し、時間に依存しない「永久強度」という新たな概念を提案し、構造材料が長期的に荷重を支える能力を定量的に評価できる手法を確立しました。永久強度とは、応力緩和試験を通じて求められる、時間とともに変化しない本質的な強度の指標です。これにより、従来の試験では見落とされがかった「長期的な応力保持能力」を正確に評価することが可能になり、構造材料の信頼性向上につながります。特に、IF鋼(極低炭素鋼)を対象とした本研究では、一般的な引張試験で得られる0.2%耐力の約65%にとどまるものの、低温度なましによって約90%まで向上することを明らかにしました。さらに、軟鋼材料では結晶粒微細化が永久強度の向上に寄与することを示し、他の材料とは異なる優位性を持つことを明確にしました。		
48	吉田 一朗	理工学部機械工学科	教授	2024年4月5日	国内	公益社団法人 精密工学会	精密工学会 功労賞	精密工学の発展・運営に対して大きな功績をなした者に対する表彰です。		
49	吉田 一朗	理工学部機械工学科	教授	2025年3月7日	国内	一般社団法人法政大学理系コンソーシアム	法政科学技術フォーラム 2025 報告・最優秀発表賞	発表タイトル:オフィス環境・工場環境におけるロボットの自動運転に関する研究	https://www.hosei.ac.jp/scitech/?auth=9abb458a78210eb174f4dd385bcf54	発表者は上赤 竜也(発表当時 M2)。贈賞の評価はすべてフォーラムに参加した民間企業からの投票による。また、贈賞率は全132発表中で5%未満。
50	伊藤 一之	理工学部電気電子工学科	教授	2024年8月31日	国外	The 12th International IEEE Conference on Intelligent Systems	Best Paper Award	論文名:Bio-Inspired Soft Crawling Robot Which Moves Using Protrusions 下等生物のような柔らかい身体をもち、突起物を損んて移動するソフトロボットを開発した。		
51	岡本 吉史	理工学部電気電子工学科	教授	2024年4月1日	国外	IEEE Sensors Letters, Vol. 8, No. 4, Apr. 2024	岡本吉史教授・塩山将英氏(2023 年度修了)らが執筆した学術論文の図(Graphical Abstract)が、IEEE Sensors Letters 2024 年 4 月号の Front Page(表紙)に採用されました。	論文名:Fast-Sensing System of Permanent Magnet Magnetization Using Matrix-Arranged Hall Sensors Combined With Deep Neural Network EV や空調機等では高出力な永久磁石モータが駆動しています。モータの出力は、装荷されている永久磁石の磁化状態に強く依存しており、非破壊的に、かつ、高速高精度に磁化状態を推定することが望まれています。この度、本研究室では、ホール素子をマイクロスライに配列した同軸ボンドを独自に製作し、永久磁石周囲の磁束密度の高速に多角での計測を実現しました。さらに、計測された磁束密度を深層ニューラルネットワークへ入力することで、永久磁石内部の磁化状態を高速・高精度に出力できる計測システムの構築に成功しました。	学術論文 URL https://ieeexplore.ieee.org/document/10448472 Front Page URL https://ieeexplore.ieee.org/stamp/stamp.jsp?tp=&number=10505055	
52	岡本 吉史	理工学部電気電子工学科	教授	2024年7月1日	国外	IEEE Transactions on Magnetics	岡本吉史教授(理工学部電気電子工学科)・山口俊輔氏(理工学研究科電気電子工学専攻修士課程2年生)らが執筆した学術論文の図が、IEEE Transactions on Magnetics, 2024 年 7 月号の Front Page(表紙)に採用されました。	論文名:Estimation of magnetization state of locally demagnetized permanent magnet using pinching-type sigmoid-function-based gradient method (P-SiGrad) EV や空調機等では高出力な永久磁石モータが駆動しています。モータの出力は、装荷されている永久磁石の磁化状態に強く依存しており、非破壊的に、かつ、高速高精度に磁化状態を推定することが望まれています。これを解決するため、本研究室では独自の永久磁石磁化推定手法 SiGrad を開発しました。しかしながら、永久磁石に欠損部が含まれる場合の推算効率が高いことが指摘されていました。そこで本論文では、磁化強度の制約条件を最適化反復部し、前反復の磁化強度を基準量として、自動的に読み込む方式を採用した P-SiGrad を提案しました。また、ネオジム磁石の磁化推定をターゲットとして、打ち切り特異値分解、SiGrad と比較することで、P-SiGrad の有用性を明らかにしました。	学術論文 URL https://ieeexplore.ieee.org/document/10516595 Front Page URL https://ieeexplore.ieee.org/stamp/stamp.jsp?tp=&number=10576028	
53	笠原 崇史	理工学部電気電子工学科	准教授	2024年11月27日	国内	第41回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウム	連報ポスター賞ファイナリスト	論文名:赤色発光マイクロ流体電気化学発光素子の発光特性 小林 皇佳さんは、インジウム窒化物を用いた新規赤色発光電気化学発光(ECL:Electrogenerated chemiluminescence)溶液を開発し、これまでに笠原研究室で作製手法を構築してきたマイクロ流体素子を用い、当該溶液の発光特性を評価するとともに、用いた材料の物性を解析し、発光過程を議論しました。	◆研究室動画(YouTube) https://www.youtube.com/watch?v=7yQwQXMcoq ◆海外向けプレスリリース(英学研) https://www.hosei.ac.jp/english/news/20240226/ ◆研究室紹介(本学広報誌) https://www.hosei.ac.jp/info/article-20220628144814/	
54	佐々木 秀徳	理工学部電気電子工学科	専任講師	2025年3月7日	国内	一般社団法人法政大学理系コンソーシアム	法政科学技術フォーラム 2025 報告・優秀発表賞	発表タイトル:Swin Transformerを用いたモータ特性推定および推定根拠の可視化手法に関する検討	https://www.hosei.ac.jp/scitech/?auth=9abb458a78210eb174f4dd385bcf54	発表者は長山 泰輔(発表当時 M1)。贈賞の評価はすべてフォーラムに参加した民間企業からの投票による。また、贈賞率は全132発表中で5%未満。
55	安田 彰	理工学部電気電子工学科	教授	2024年11月23日	国外	IEEE Consumer Technology Society East Joint Japan Chapter	IEEE CT East Joint Japan Chapter ICCE Young Scientist Paper Award	論文名:A CSRR Glucose Concentration Sensor with Increased Resolution Using the Q-Value Enhancement Circuit Technique 本研究では、指先を当てるだけで血糖値を高精度に測定できる非侵襲型センサを高周波回路技術により実現している。	https://iee-jp.org/section/tokyo/chapter/CT-08/ct.htm	
56	平原 誠	理工学部応用情報工学科	准教授	2025年3月7日	国内	一般社団法人法政大学理系コンソーシアム	法政科学技術フォーラム 2025 報告・優秀発表賞	発表タイトル:フロントガラス投影映像を用いた錯視による交通渋滞緩和	https://www.hosei.ac.jp/scitech/?auth=9abb458a78210eb174f4dd385bcf54	発表者は長岡 隼巳(発表当時 M2)。贈賞の評価はすべてフォーラムに参加した民間企業からの投票による。また、贈賞率は全132発表中で5%未満。
57	山岸 昌夫	理工学部応用情報工学科	准教授	2024年6月6日	国内	電子情報通信学会	論文賞	論文名:A Unified Design of Generalized Moreau Enhancement Matrix for Sparsity Aware LiGME Models		山田 功(東京科学大学)
58	五島 洋行	理工学部経営システム工学科	教授	2024年9月12日	国内	5th Asia Pacific Conference on Industrial Engineering and Operations Management	Undergraduate Student Paper Competition sponsored by Siemens	論文名:Optimal Layout Planning for School Consolidation “Elementary Schools in Machida City, Tokyo” 少子化の進む日本において、今後学校の統廃合は避けて通れない社会的課題ですが、学校の配置を考える際、特に小学校などでは通学距離をなるべく短くするような工夫が求められます。市・区・町・村の児童の人口分布を考慮しつつ、学校数や教師の総数を変えない範囲でよりよい学校の配置を決めるために、「最適施設配置問題」と呼ばれる問題を計算機を使って解き、最適な配置を求めました。論文では東京都・町田市をモデルケースとして検討しましたが、同様な方法は他の自治体にも適用可能です。		
59	五島 洋行	理工学部経営システム工学科	教授	2024年9月12日	国内	IEOM Society International, the 5th Asia Pacific IEOM Conference	Distinguished Leadership Award		http://www.ieomsociety.org/documents/awards-2024tokyo.pdf	
60	五島 洋行	理工学部経営システム工学科	教授	2025年2月20日	国外	IEOM Society International	2025 フェロー選出	Operations Management (OM) は、計算機や数理科学を駆使し、企業経営や社会システムの問題発見・改善や効率化、自然災害の減災など市民の暮らしの質向上などに貢献する研究分野であり、研究、教育、国際会議の主催による国際交流促進など、当該分野および学会への幅広い貢献により、フェローの称号が授与された。		
61	田村 信幸	理工学部経営システム工学科	准教授	2024年8月29日	国内	11th Asia-Pacific International Symposium on Advanced Reliability and Maintenance Modeling	Best Paper Award	論文名:Optimal CBM Policy for a Degrading System with Two Weighted Components 確率的に劣化が進行する2 個の設備で構成されたシステムに対し、最適な保全方策を導出するための新たな数学モデルを提案した。この数学モデルはウィナー過程とマルコフ決定過程と呼ばれる確率過程を用いて構築されている。そして、提案した数学モデルを解析することで最適な保全方策を求める上で有用な幾つかの結果を導いた。		昨年度卒業した大学院生の修士論文の研究を指導教員がまとめ直し、国際会議で発表した。
62	寺柚 友秀	理工学部経営システム工学科	教授	2024年11月7日	国内	千葉大学理学部後援会	千葉大学 サイエンス・レクチャーシップ・アワード2024	論文名:コホモロジー3兄弟の親をさがして 代数多様体の不変量である3つのコホモロジー理論を生み出すモチーフ理論とその応用についての研究をおこない、その成果を非専門家に対してわかりやすく解説した		
63	劉 慶豊 津久浦 健太	理工学部経営システム工学科 理工学部経営システム工学科	教授、 教務助手(受賞当時)	2024年9月12日	国内	IEOM Society International	Outstanding Conference Award, the 5th Asia Pacific IEOM Conference		http://www.ieomsociety.org/documents/awards-2024tokyo.pdf	
64	劉 慶豊	理工学部経営システム工学科	教授	2024年10月14日	国外	学会名、Academy of Innovation, Entrepreneurship, and Knowledgeと International Society of Management Engineers、会議名、ACIEK(winter)-IMP 2024	Outstanding Contribution Award			
65	渡邊 雄二郎	生命科学部環境応用化学科	教授	2024年10月31日	国内	日本イオン交換学会	学術賞	論文名:ゼオライト複合体の開発とイオン交換への展開 受賞したテーマは「ゼオライト複合体の開発とイオン交換への展開」で、ゼオライトのイオン交換反応を利用した複合化技術とその得られた複合体のイオン交換等を利用した環境浄化に関する技術開発が、特色あるものであり、それらの手法は日本イオン交換学会の目指す研究方向を示唆する特長すべき功績であり、学術賞の受賞に至りました。		
66	石山 恒貴	政策創造研究科	教授	2024年度	国内	組織学会	『組織科学』2024年度ベストレフェリー賞	過去2年間に投稿論文の査読を担当したレフェリーが選考の対象で、レフェリーは担当本数と査読締切厳守率が選考の基準	https://www.aaos.or.jp/journals/2024_best_referee	
67	石山 恒貴	政策創造研究科	教授	2024年度	国内	日本キャリア・カウンセリング学会	2024年度個人研究発表 優秀賞	個人発表名:仕事と介護の両立をする女性のキャリアレジリエンス	https://jacc.or.jp/awards/awards/8/	堀川 妹乃(地域創造インスティテュート・研究生)が第一発表者

3-d-1_学部別学術賞の受賞状況

N O	教員名	所属	身分	受賞年月日	国内・ 国外	授与機関等	受賞名	受賞・表彰概要	資料・URLなど	備考
68	余 恪平	理工学研究科	准教授	2024年5月22日	国内	クラリベイト・アナリティクス・ジャパン主催（後援：文部科学省）	第5回 ジャパンリサーチフロンティアワード	■ 受賞概要 本賞は、学術文献引用データベース「Web of Science」に収録された世界の上位1%の高被引用論文と、後に共引用される研究論文群を解析し、今後飛躍的發展が期待される最先端研究領域（リサーチフロンティア）を特定した上で、その分野において顕著な貢献を果たした研究者を表彰するものです。 今回は、全世界12,726のリサーチフロンティアの中から、日本国内の研究機関による貢献度が特に高い11の領域が選出され、それぞれの分野において2001年以降に学位を取得した11名の研究者が受賞者として選ばれました。 本賞は、クラリベイト・アナリティクス・ジャパン 株式会社により4年に一度開催されており、将来の学術研究の方向性を示す重要な指標としても注目されています。		
69	余 恪平	理工学研究科	准教授	2024年9月10日	国内	電子情報通信学会 基礎・境界サイエティ	貢献賞（編集）			
70	大里 知子	沖縄文化研究所	准教授（受賞当時）	2024年10月17日	国内	沖縄文化協会	第46回沖縄文化協会賞 比嘉春潮賞	「謝花民権」「琉球処分」「旧慣温存政策」など沖縄近代史において大きな論争となったテーマについて検討し、論争時の時代背景と歴史認識のあり方を緻密に考察した点が評価され、「近代沖縄史論研究」の成果に対して、歴史学分野に贈られる比嘉春潮賞を受賞した。	沖縄文化協会	2025年度より教授に昇任